

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(公民) 科目:(現代社会) 対象:(第3学年A組～G組)

教科担当者:(A組:岡田)～(F組:岡田)(G組:三上)

教科・科目の 指導目標	①政治・経済、社会、文化・倫理など現代社会の諸課題に対する生徒の関心・興味を高め、時事的な問題並びに課題解決のために必要な基礎的知識を習得させる。②政治・経済の基本的仕組みや経済事象を理解させるとともに、グローバル化に伴う社会的諸問題について考察させる。③現代社会の諸課題について多面的かつ客観的に考察させ、自己と社会との関わりに注目させ、いかに生きるかを主体的に考えていく端緒とする。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1 入試問題には公民的分野に関する論述問題があった。内容はグラフや文字の諸資料を複数使った読み取り、つながりや時代資料の背景を考えさせるものであった。 2 公民分野の問題は正答率が概ね7割前後であり、中学校の学習に内容関する基礎的な理解が進んでいると考えられる。 3 その一方で記述論述問題でなかなか満点がつかなかった。その理由は社会の資料の読みとたうえで文字化するという表現力の点で課題が見られる。	1 政治、経済について、基本的な用語を確実に定着させると同時に、さらに応用力の涵養に努める。 2 表やグラフなどの図表に関して、①正確に読み取りができる能力、②読み取ったものを分析、考察できる能力の涵養に努める。 3 環境や国際化など現代社会の諸課題に対する生徒の関心・興味を高め、課題解決のために必要な基礎的知識を習得させる。 4 経済の基本システムや経済事象を理解させるとともに、グローバル化に伴う様々な経済的問題について考察させる。	1 特に重要な事項、例えば憲法や法令については、暗記を課し、結果を授業で確認する。 2 教科書のみならず、資料集や新聞の補助教材等を利用しながら、政治、経済について、基本的なタームを確実に定着させる。 3 頻繁に補助教材を使用し、意味、図表などの正確な読み取り、背景と分析、考察などができる能力を習得させる。 4 社会を多面的かつ客観的に考察させるために、現代社会に生起している様々な諸問題を具体的に紹介する。 5 時間があれば生徒に発表を行わせるなども試みてみたい。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			